

技能実習生受け入れ企業として

マイコー株式会社 総務部次長

磯村 光男さん



企業で活躍する技能実習生

技能実習生の受け入れを平成8年から始め、平成14年にはベトナムに現地法人を設立しました。現在は、全技能実習生56人のうち51人がベトナム人です。人材の確保が難しい状況のなかで、技能実習生は貴重な存在となっています。技能実習生は、現地で約2年間作業の基礎を学び、そのなかでも成績が優秀な人が来日します。来日後は日本で高度な加工や検査の

技術を身に付け、帰国後は現地法人で活躍してくれています。また、責任者になった人は企業内転勤者として再度来日し、さらに高度な教育を受けながら技能実習生の指導補助をしています。優良企業として受け入れ枠が増え、在留期限も2年延長されたことから、今後も外国人の受け入れは増えていくと思います。

市民と技能実習生の交流を

多くの技能実習生と仕事をするなかで、ベトナムの生活様式や宗教観などは日本と似た部分が多いと感じています。また、明るい性格の人が多く、イベントがとても好きなようで、地域のイベントに参加して地域の人と交流したいという声をよく聞いています。技能実習生が参加できるようなイベントや地域の行事があれば、ぜひ声を掛けていただきたいと思います。交流することで、お互いに新たな発見をすることができるようではないでしょうか。

「餅つき」で外国人との交流を

天満ABM協会 会長

徳森 保雄さん(成羽町成羽)



日本の「食」で交流する

地域住民の団体「天満ABM協会」が毎年12月に行っている「餅つきDEフェスタ」に、平成24年から吉備国際大学の留学生が参加しています。今回は初めて地元事業所の技能実習生にも参加していただき、過去最多となる36人の外国人が参加しました。フェスタでは、「きねつき餅」を作り、また女性会員が豚汁を振る舞います。外国人の参加者は一

緒に餅をついたり、丸めたり、食べたりしながら交流しています。最初は言葉が通じることが不安でしたが、参加者が明るくて素直なので、お互いに楽しい時間を過ごすことができていると思います。

国際交流を続けていく

フェスタを通して、日本と外国の文化の違いや生活の状況を勉強することができるとともに、市内の外国人に親しみを持つことができるようになりました。今後も国際交流の取り組みを地域一体となって続けることで、多文化共生社会の構築に貢献していきたいと思っています。



令和元年12月開催時の様子

外国人との共生に向けて

吉備国際大学 社会科学部 学部長

井勝 久喜さん



個性や考え方を尊重

吉備国際大学には毎年約1000人の留学生が入学しています。10年前は中国や韓国の人を中心でしたが、現在はベトナムやインドネシアの留学生が多くなっています。国が違うと生活習慣や考え方が異なるため、留学生への接し方に戸惑うことがあります。それと同じように、留学生も日本人との接し方が分からず苦労しているのではないかと思います。日本人は外

国人と接するとき、国ごとに性格付けをしてしまいがちです。確かに、留学生の行動や考え方は出身国の文化的背景などの影響を受けていますが、一人一人考え方や性格が違うことを理解していかないといけないと思います。留学生の個性を尊重することが大切であり、私もそのように留学生と接するよう心掛けています。

外国人が増えていくなかで

外国人の受け入れが増えていくなかで、今後は市民と外国人との交流が増えてくると思います。外国人との接し方が分からない市民の皆さんもいると思います。外国人と接していただくと思います。



学園祭での集合写真

「地域の住民」として交流を

林 富和さん(成羽町吹屋)



地域の人と同じように

吹屋地区には現在2人の外国人が住んでいます。そのうちの一人が、いろいろな台所の店主であるジェイさんです。地域のイベントや行事に積極的に携わってくれているジェイさんを、「地域で受け入れた」という実感はありません。自然体で暮らす私たちの姿や環境に魅力を感じて移住してくれてきたと思うので、私たちも地域の人と同じように接することができています。

それは、おおらかで親しみがもてるジェイさんの性格も大きく影響しているのではないのでしょうか。

お互いに知ることが大切

外国人は日本の食事や文化をよく勉強していますが、私たちが相手の国について知らないことが多いと思います。私もなかなか外国のことを勉強したり実際に行ったりする機会はありませんが、まずはお互いの国を知ることこそが、交流を深める第一歩になるのではないのでしょうか。



地域での交流を深める